

【レポート】

指数字目録掲載写本の書誌情報

末 森 明 夫

筆者は世界各地のラテン文字系統指文字における系統解析を行っており、その一環として指数字の資料調査にも携わっている。しかしながら指数字目録が掲載された中世写本の書誌情報は十二分に整理されているとは言い難い面が残る。そこで指数字目録に関する主要文献ないし指数字目録が掲載されている中世写本の書誌情報の整理を図ることを眼目とし本稿をしたためた。

1. 総説・書籍

Williams, B. P. & Williams, R. S. (1995) Finger Number in the Greco-Roman World and the Early Middle Ages, *Isis*, 86, 587-608.

古代ないし中世に欧州で用いられていた指数字に関する総説は数報出されており、上記のものが最も代表的なものとなっている。指数字や手話単語の表現例を説明した記述が見られる写本は少なく、本総説でもそのような例が附録資料に網羅的に載録されている。特に『Romano Computatio』における指数字に関する記述（ラテン語）は特筆に値する。

Turner, J. H. (1951) Roman Elementary Mathematics: The Operations, *The Classical Journal*, 47 (2), 63-74, 106-108.

上記の論文では上記の『Romano Computatio』の指数字に関する記述を解説し図示したものが掲載されている（図1）。

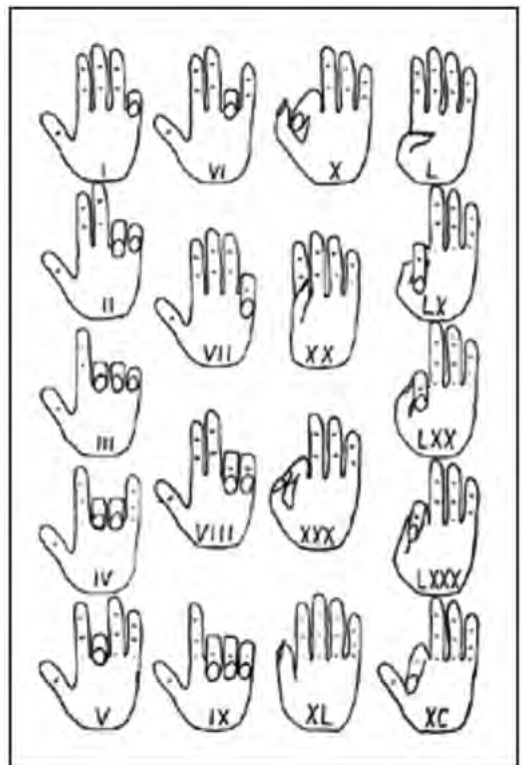


図1 『Romano Computatio』より復元した指数字 (Turner 1951)

Claire R. Sherman (Ed.) (2001) *Writing on Hands: Memory and Knowledge in Early Modern Europe*.

上記の本には中世より近世にかけて欧州で用いられた指数字、指文字、手真似文字などの事例が豊富な図と共に網羅



図2 『Computus collection』 f.38r



図3 『Miscellany works on Computus and astrology』 f.33v

的に載録されている。ただ、後述する『Computus collection』や『Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita』に載っている指文字目録は紹介されているものの、『Miscellany works on Computus and astrology』や『De Numeris』に載っている指文字目録は紹介されていない。

2. 中世写本

2-1 『Computus collection』

イタリアのある修道院で11世紀前半に書かれたものと見られている写本には指文字目録が掲載されている(図2)。この写本は現在モルガン美術館(米国)に

あり、写本の一部はインターネットで一般公開(無料)されている。この写本に載っている指数字目録はBedeが書いた本(原本あるいは他の写本)に拠るものと見られている。

【書誌情報】 [Title] Computus collection. MS M.925 [Pages] f. 38r-f.39r [Origin] Italian ca. [Date] 1018-1032, [Collection] Pierpont Morgan Library.

2-2 『Miscellany works on Computus and astrology』

フランスのある修道院で11世紀後半から12世紀前半の間に書かれたものと見られている写本に指文字目録が掲載されている(図3)。この写本は現在英国図書

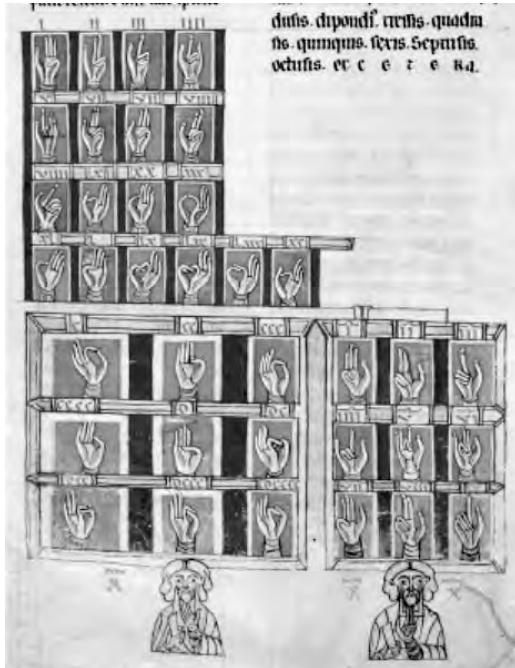


図4 『Alcobaça Collection with the shelf mark ALC. 426』 f.250v.

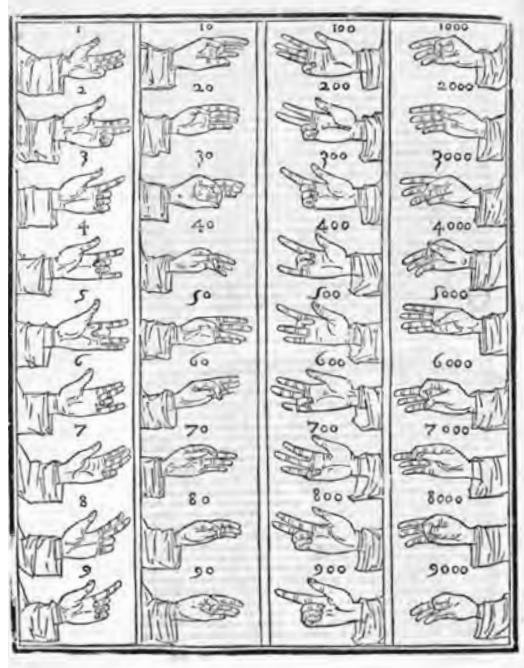


図5 『Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita』 f.36v.

館にあり、写本の一部はインターネットで一般公開（無料）されている。

【書誌情報】 [Title] Miscellany works on Computus and astrology, [Origin] France, N. or Central, [Date] Last quarter of the 11th century or 1st quarter of the 12th century, [Pages] f.33v, [Collection] British Library.

2-3 『De Numeris』

アルコバーサ修道院（ポルトガル）で12世紀後半から13世紀前半の間に書かれたものと見られている写本にも指文字目録が掲載されている（図4）。この写本は現在はポルトガル国立図書館（National Library of Portugal）が所蔵しており、マイクロフィルム（白黒）が整

備されている他、復刻版（白黒）も刊行されている。ただ、指文字目録の図のカラー版はオンラインショップで購入可能である。また、この指文字目録は『Encyclopedia of the Middle Ages』（vol.1, p1209）でも紹介されている。

【写本書誌情報】 [Contributors] anonymous in Alcobaça Monastery, [Date] 1176 ~ 1225, [Figures] The art of counting with the fingers, [Title] De Numeris, Alcobaça Collection with the shelf mark ALC. 426, [Pages] ff. 250v/252r, [Writer] Rabanus MAURUS (784?-856), [Origin Date] 9th century, [Origin Title] De Numeris（数字について）, [Collection] National Library of Portugal (Biblioteca Nacional de Portugal), Manuscripts Department

【マイクロフィルム】

reference number: F.5772,
ReproductionService:reproducoes@
bnportugal.pt

【復刻版】 Thomas L. Amos (1988-1990).
The Fundo Alcobaca of the Biblioteca
Nacional, Lisbon, Hill Monastic Manuscript
Library. vol.I: Manuscritos 1-150. - [4],
XLIX, 307p., vol.II: Manuscripts 151-301.-
1989.- XXXI, 321p. vol.III: Manuscripts
302-456; Museu Nacional de Arte Antiga
/ by Jonathan Black, Thomas L. Amos. -
XXXVII, 537p., ISBN-10: 0940250209,
ISBN-13: 978-0940250208

2-4 『Summa』

Pacioliが執筆した印刷刊行物『Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita (算術、幾何、比および比例に関する全集)』に指文字目録が掲載されている(図5)。この本は印刷刊行物であるため、複数の原本が存在する(Sherman 2001)。

3. まとめ

本稿では図示された指数数字目録が掲載されている中世写本等の「書誌情報」に限定してしたためた。図示された指文字目録が確認できる14世紀以前の中世写本は現時点では上記の3件のみに留まる(表1)。『Summa』は印刷物であるため、前述の写本群とは区別することにする。『Writing on Hands』では『Computus collection』や『Summa de Arithmetica, Geometria, Proportioni et Proportionalita』に載っている指文字目録は紹介されているものの、『Miscellany works on Computus and astrology』や『De Numeris』に載っている指文字目録は紹介されていない。本稿では

表1 指数数字目録掲載中世写本等一覧

写本表題	原本成立時期	写本作成時期
Computus collection	8th century ? (By Bede)	1010~1032
Miscellany works	?	1076~1125
De Numeris	9th century ? (by Maurus)	1176~1225
Summa	?	1492

『Miscellany works on Computus and astrology』や『De Numeris』の書誌情報を整理することにより、指数数字目録掲載中世写本の書誌情報を俯瞰することを試みた(表1)。

楠川氏は上述の『Writing on Hands』で、『Computus collection』に掲載されている指文字目録における錯誤を指摘している。従って中世写本における指数数字の表現を無謬に受け入れることには慎重であることが望まれる。

一方、『Romano Computus』より復元された指数数字復元目録及び中世写本掲載指数数字目録は、ラテン文字あるいはキリル文字指文字(符号式)を兼ねてもいることが知られている。指数数字に拠る指文字は符号式による指文字でもあり、象形式指文字とは指文字体系の変化自体にも根本的な差異が認められるものと考えられる。表1に示すように中世写本の成立時期を検証することにより、中世写本に掲載されている指数数字/指文字のわずかな変化を系統的に解析することが望まれる。